

私はディレクトフォースで近藤さんから義手に関することや学生時代のことなど様々なお話をいただいた。近藤さんのお話の中でとくに印象に残ったことは義手もメガネや時計のように個性を表現出来るものにしマイナスだったものをプラスに変えたいと考えて企業を立ち上げるに至ったという点だ。その考え方がすごいと思い、またそこですぐ行動できる点が私にも必要なのではないかと感じた。その他には相手に合わせたものづくりをしてるいるということや色々な人のもつ色々な価値観に触れることが大切だと聞きその通りだと思った。また一緒に楽しく働けるか喜んでもらえるかを考え何をやるかよりもどうやるかが大切なんだと聞き、そんなこと考えたこともなかったなと思った。近藤さんの一番つたえたかったものづくりは映画制作と同じでものは世界共通語で手は表現するものという考え方はその通りだと思った。その後 3 人の方に事前に考えていた質問やお話を聞いて思ったことなどを質問して答えていただいた。

まず 1 人目は太田淳一さんという方でした。太田さんは私たちのために質問に答えた紙を用意してくださってとてもわかりやすく質問に答えていただいた。とくにその中でも留学する時に大事なことは外国を知ることよりも日本についてよく知ることだと言われ少し驚いた。外国にいくと外国の人に日本ってどんな所なのとかと聞かれるそうですその時に答えられなければならないからまず日本のことを知らなければならないそうだ。その話をきいてなるほどなと思った。その他にも喜びを感じた時はいつですかという質問の答えとして頑張って周りの人を幸せにしてそれが自分にはねかえってきたときといわれ喜びというのは自分 1 人で感じられるものではないのだなと感じた。会社生活では上立って管理職となってやっていると自分の成績というよりも、チームの成績を上げるという考えになり部下に目を配り長所を伸ばしてやるということが大事になるそうだ。そこにやりがいを感じていたそうだ。

そんな話をきいて私は部活というのは小さな会社のようなもののように感じた。部活では管理職のように上級生になれば自分だけではなく下級生に目を配らなければならないからだ。ただ部活を何となく過ごしてやるのではなく将来に役立つような時間にしたいと思った。

2 人目の方は村上悠平さんという方だ。村上さんは私たちのいる仙台の近くの福島県出身で海外との交渉などもおこなっていた方だ。村上さんは今のうちにやりたいことはやっておいたほうが良いとおっしゃっていた。また色々な視点から仕事を考えることが大切ともおっしゃっていた。面白いことは世界共通であることや共通点を見つけることも大切だそうだ。英語を勉強するにあたって一つ一つの単語を聞くのではなく全体で把握することが大切でおもしろくなるように考えるのもいいそうだ。

3 人目の方は矢ヶ崎隆二郎さんだ。矢ヶ崎さんは海外の銀行で働いていた方だ。あのランプ大統領とも交渉したことがあると言われすごいと思った。一つ一つのお話が面白い方

だった。とくに印象にのこっているのは外に目を向けるということと、コミュニケーションが全てであるということだ。3人の方にお時間をいただきとても実のある充実した体験だった。みなさんのお話で学んだことを無駄にすることなくこれからの自分の生活に役立てて行きたいと思う。

その後移動して企業訪問をした。企業訪問で私たちは三菱重工を訪問させていただいた。三菱重工では初めに見学用のブースで今行われている研究などについて説明していただいた。今特に力を入れているのはMR J(三菱リージョナルジェット)とよばれる飛行機だそう。今までの飛行機は主に海外の会社によって作られていたがこのMR Jは初の国産の飛行機になるという話をきいてすごいとおもった。そのほかにもロケットや三菱重工が目指す未来の暮らしなども説明していただいた。また技術者の訓練で使っているものを使って訓練体験をしたがとても難しいものだった。その後、事前に質問していたことや新たな質問などを場所を移して行った。

一つめの質問は仕事を行う時に絶対にこれだけは守るときめていることやポリシーはありますかに対して、ひとびとに感動を与えられるような技術、ものづくりへの情熱によって確かな未来を提供すること、常によいものをより安くより早く作ることという答えをいただいた。

二つ目の質問の技術開発のうえで心がけていることはに対して市場ニーズをつかみ、課題の発掘、問題解決のための打ち手の提案をだすことやほかの部門との連携が大事だと答えていただいた。

最後に仕事の楽しいことやりがいいという質問に対しては自分の携わった製品が社会で役に立っている時やお客様の問題に知識や技術で解決し感謝された時などの答えをいただいた。そのあとに目指す企業像なども聞き日本だけでなく世界にも知られているとてもすごい企業なのだと改めてしり私もこんな会社にはいり活躍してみたいと感じた。

この企業訪問はアポ取りから自分たちでやるというもので大変だったがとてもわたしにとって良い経験だったと思う。そこからホテルに移動して二高の東大OB、OGの方に質問やお話を聞いた。

その中で印象に残ったのはほとんどの人が1年生のうちから東大に行こうと思っていたのではなく3年生くらいになってから行こうと思いはじめたということだ。東大を目指した理由は進振り制度と言われる入学するときに受ける試験の分類とは違う学科に成績しだいではあるが行けるという制度があるからだと言っていた。

私もその制度の内容を聞きとてもいい制度だと感じた。二高のOBOGの方々の話はとてもこれからの高校生活に役立つとてもよいものだった。最終日私たちは東大を見学した。

初めに駒場キャンパスを見学した。よくテレビなどで目にするキャンパスとは違ったのでこんな所にもあったのだと驚いた。ここでは建物の説明を東大生にしてもらい、図書館にも入れていただいた。東大の建物は沢山あり一つ一つ行われている授業が違うそうだ。とくに入口近くの建物が大きかった。図書館は大きくたくさんの本があった。また自習ス

ペースが大きく東大生の勉強への意識が高いなと感じた。ほかの建物にも自習スペースがあった。説明していただいたあと東大生の方々にプレゼンをしていただいたり考えたりして自分の将来について考えた。東大生の皆さんもやはり初めから東大に行く決めていたわけではないと知った。やはり進振り制度に魅力を感じ入ったという方が多かった。私は大学や就職先などの自分の将来について今まであまり考えてこなかったがこの機会に将来について考える時間をいただき考えられたことはとてもよかった。またほかの人の将来について考えたことも聞いて考えられたということがとても良かったと思う。

その後お昼を食べた後次は東大の本郷キャンパスに移動した。本郷キャンパスは赤門のあるよくテレビなどで見るキャンパスだった。ここではまず農学部の建物に行き教授に模擬授業をしていただいた。そこで農学部は農業だけをやっているわけではないということや東大の農学部の行っている研究などを教えていただいた。それから私たちは二つの研究室を見学させていただいた。一つは木に関する研究でもう一つは淡水と海水の魚の研究だった。どちらも研究内容をわかりやすく説明していただいた。農学部というのは幅広い分野を学ぶことの出来る学部であると知った。見学が終わったあと東大生の方に質問をして2日間の全ての研修が終わった。この2日間を通じて私はとても貴重な体験を経験した。この経験では仕事、自分の将来についてなどを話を聞くことでまなびそして考えることができた。とても充実した2日間だった。この経験をむだにすることなく自分の将来に向けてがんばっていきたいと思う。